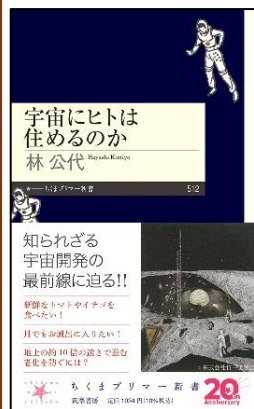


【緑地を楽しむ本】

『宇宙にヒトは住めるのか』 ちくまプリマー新書

林公代・著 筑摩書房



この春、アルテミス計画の有人月周回飛行が成功し、アポロ計画の頃から少し遠くなっていた月への距離がまた近づいたような気がしました。

この本では、国際宇宙ステーションなどで「宇宙に住む」というより、さらに進んで「宇宙で暮らす」・・・

「我慢せずに」「快適に」生活するということを目指して研究している最前線取材しています。

月で暮らすとして、「月産月消」のために選ばれた8種の作物があります。「イチゴ、レタス、トマト、イネ、ジャガイモ、サツマイモ、キュウリ、ダイズ」です。それぞれに理由はあるのですが、「イチゴ」が選ばれた

理由には「みんなで収穫して食べれば、自然とにこにこして仲良くなるでしょう。」という栄養面だけではない、研究者の意見も反映されているとのこと。

照明についても地球上では当たり前に見える・・・流れる雲によって時おり遮られる太陽の光、樹木のすき間から差し込む木洩れ陽などなど、をいかに再現、実現できるかを研究しているようです。

最前線の研究に驚きながら、長い年月、地球上で暮らしてきた人類と自然との関係について再考させられました。

(遠藤)